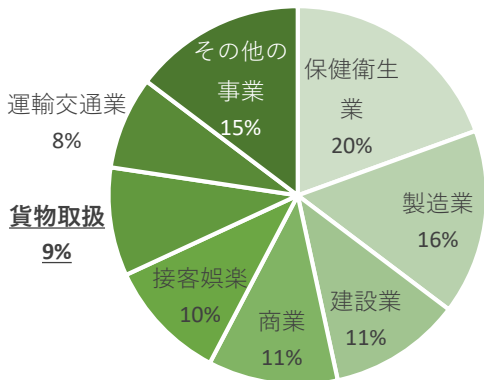
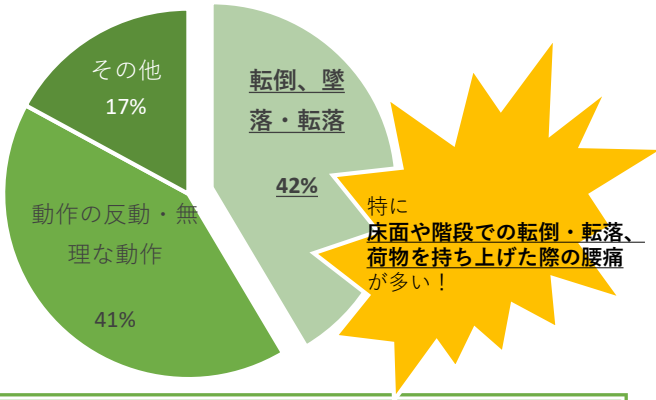


労働災害の現状と対策事例

傷病者数の割合
(業種別、令和 3 年確定値)



陸上貨物取扱業の事故の型
(令和 3 年確定値)



労働災害が発生した状況、対応例のご紹介

発生状況	対応例
《通路で転倒した事例》 ・廊下を走って作業場所に向かっている際に転倒し、近くに置いてあった台車に激突したもの。	・勤務中に走らないよう注意喚起を行う。 ・通路に障害物がないように定期的に巡視を行い、すみやかに排除する。
《通路の障害物で躓いた事例》 ・労働者歩行用の通路にはみ出していたロールボックスのストッパー（ゴム製）に足を取られて転倒したもの。	・通路に障害物がないように定期的に巡視を行い、すみやかに排除する。 ・足が上がるように筋力を上げるための体操等の取り組みを行わせる。
《床面の水気に足を取られた事例》 定期的に塩素で消毒を行っているトイレに入った際に、ビニール製のスリッパに履き替えて歩行していたところ、滑って転倒したもの。	・スリッパを防滑仕様にする。 ・床面を転倒しにくい素材に変更する。
《高所から転落した事例》 脚立に乗って棚の上に荷物を置こうと持ち上げた際に、バランスを崩して脚立から転落したもの。	・脚立ではなく立ち馬を使用する。 ・棚の上に重いものは置かないようにする。



発生状況	対応例
《段差につまづいた事例》 ・玄関で靴を履き替える際に、靴を下駄箱に入れる動作を行いながら下駄箱に近寄ったところ、段差で足をひねって転倒したもの。 ・床上10センチメートルの高さのものをまたいだ際に、またぎきれずにつま先が引っ掛かり、転倒した際に近くにあった台車に激突したもの。	・複数の動作を同時に行わない。 ・スロープを付ける等して、段差を可能な限り減らす。 ・ものをまたがないで済むように、労働者の同線を見直す。 ・不要なものを撤去し、整理整頓を行う。 ・足が上がるように筋力を上げるための体操等の取り組みを行わせる。 

貨物取扱業の災害発生防止のポイント

- 2メートル以下の高さであっても、転落した際に一命を取り留めるためにはヘルメットの着用が重要となります。ぜひ作業中のヘルメット着用をご検討ください。
- 転倒災害防止のためには、施設の管理状況だけでなく、労働者自身の筋力UPも重要です。つまづかない体づくりのために、「ころばNICE運動」等の運動をお試しください。

参考になる資料



陸上貨物運送事業における荷役災害等を防止するための留意事項
～重大な災害事例に学ぶ災害防止ポイント～

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000139559.html>



ロールボックスパレット使用時の労働災害防止マニュアル
～安全に作業するための8つのルール～

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000098500.html>



ころばNICEかながわ体操
https://jsite.mhlw.go.jp/kanagawa-roudoukyoku/hourei_seido_tetsuzuki/anzen_eisei/hourei_seido/korobanice.html



職場のあんぜんサイト：転倒・腰痛防止用視聴覚教材

<https://anzeninfo.mhlw.go.jp/information/videokyozai.html>